

<ジュエリーの効用>

ずっと以前の事。同業の友人の言葉。シマダさん、アナタの創るネックレスは今のイタリアそのものですよ。今イタリアに行けば大ヒットですよ、と。現在のネックレス流行りのずっとずっと以前からシマダはネックレスを創っていた。半貴石のネックレスはジュエリーではないといわれても構わない。それが、今はネックレスの大流行。別の友人は言う。“シマダさんの半貴ネックは別物”と。画を描きそのまま1回で仕上がることはまず無い。気に入るまで、綺麗と思えるまで何回でも創り直す。何ととっても女性には大切な首と胸を飾るものだから。ジュエリーの効用を何に求めるかは人それぞれ。働いている人、家庭の主婦、それぞれの環境をよりよい状況にもっていくのもジュエリーの仕事。真にその人に合ったジュエリーは、その人をピンク色の肌に変え輝く。勿論それに本人も気付く。楽しくなければ人生勿体ない、の人生に導くのもジュエリーの役割か。



<真夜中の読書>

さあ、今日も終わり、と寝室へ。すぐに寝れば良いものを座ればつい本に手が伸びる。シマダは小説の類は殆ど手にしない。塩野七海、手嶋龍一が、この数年の愛読書。紀元前のギリシャ、ローマ時代が好きなので塩野七海著作は完読、さらに再読。前BIZ newsにも書いたように、手嶋龍一の著作の窺い知れない世界政治のミステリアスな真実は小説の出る幕ではない。時計の針を気にしつつワクワクは止まらない。これ以上は睡眠時間数時間、とやむなく停止。不思議な事に絶対不足、の睡眠時間であっても朝はさほど辛くない。満足した脳と心はアラームも出さない。眼科医に宣言した。”本が読めなくなったら全てを終わりにしたい”と。

楸インク・イン コーポレーションより“日本の女性ジュエラー”（8月発行予定）にBIZ 島田節子が紹介されます。

<今を生きる>

シマダは独居生活者である。独居生活は寂しいか、とえば NO (孤独については、またいずれ書きたい)。一人で不可能な事は多々あるのでその時は誰かにお願いして助けて頂く。大変なのは家事、ハウスマネージメントくらい。シマダは若かりし頃考えても解決のつかない、謂わば形而上学的とも言える考えに悩んだ時期がある。今は何にそこまで悩んだのか解らない。それが友人である僧侶との会話、行動に接していくうちに謎は少しずつ解けていった。彼は、くたびれた服や靴でべらんめえ調の言葉とは裏腹に行動はあらゆるモノへの配慮に満ちていた。シマダはいつしか生きるのがとても楽になり、とその頃、僧侶は亡くなった。以来モノの考え方、見かたは柔軟になり、それでも何か困難に出会った時には“よし、やってみよう。それで私がワンランク上の人間になれるのなら”と向き合うことにする。そして彼に感謝の言葉ひとつも伝えられなかったが、言葉、行いの幾つものがシマダの中に残っているので、以後は自分で自分を育てるのだと思っている。



アナベル

<シマダの胃は緑色>

ブロッコリー、アスパラガスを見れば買いたくなる。日に2回、それを毎日食す。寒さの残る頃からずっと。ふと、思う。もしかして私の身体の中はグリーン一色？



それにブルーチーズと白ワインがあれば、庭のキラキラ光る緑の中に丸く浮かぶ白いアナベルを眺めながらの贅沢な休日の午後となる。そこにバッハのチェロが響いていたら最高の幸せ！

<日常を楽しく>



思わぬ方向にのびる
キュートな姿のバロックパール



ハート型スライスダイヤ使用
ワインオープナースタイルの
ペンダント・ブローチ
男女両用